

学校運営方針				進取の気象を有し、明朗にして端正で、広く社会への貢献を志す有為な人材の育成を目指す。			評価 (3月)	
昨年度の成果と課題				年度重点目標	具体的目標			A
<p><令和元年度の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学力向上に向けた新時制と教職員の働き方改革に向けた選択制勤務時間を策定し、令和2年度からの施行が実現した。 ○課題研究や英語ディベート等での多くの発表経験、生徒主体の進路学習「ドリカムプラン」の推進、第1志望を貫く進路指導の結果、難関校のAO入試の合格者を多く輩出することができた。 ○SSH事業に関し、積極的に外部への研究発表を行い入賞者も多く出た。卒業生の活躍も雑誌の記事等から確認できた。第3期の申請が通り令和2年度にSSH11年目を迎えることができた。 <p><令和2年度に取り組むべき課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新時制の施行に伴い様々な課題が表面化するとと思われる。一つ一つを検証し、改善策を考えていく必要がある。また記録を残し、他校への情報提供に役立てたい。 ○課題研究 (ESD探究) のテーマを、自らの進路選択に繋がるように設定することができれば、より効果的な進路指導ができる。そのためのシステムの構築が必要である。 ○第3期SSHの事業の推進にあたり、新しいことを積極的に取り入れ、チャレンジし、検証していく必要がある。 ○令和4年度の新学習指導要領全面実施に向けて、教育課程の検討、行事の精選等を進める必要がある。 ○病気の予防、健康の維持増進等、生徒が心身ともに健康な日常生活を送ることができるように、保健衛生教育を推進する必要がある。 				1 新時制の施行と検証	ア 生徒動態や学習時間調査等を活用した新時制の検証を行うとともに、次期学習指導要領実施に向けた教育課程の開発を行う。 イ 新時制の施行に伴う授業・課外授業のあり方について研究し学力の充実を図る。 ウ 新時制を始め本校の多彩なプログラムについて、学校内外へ理解が深まる広報活動を展開する。	A		
				2 新時制をきっかけとした、効果的な授業への改善	ア 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の推進で、能動的に学ぶ力・教科学力の向上を図り、個に応じたきめ細やかな指導により、進路希望達成のための自己管理能力を育成する。 イ 人権教育・主権者教育プログラムの充実を図ることで、生徒一人ひとりに批判的思考力や問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけさせる。			
				3 進路学習と課題研究 (ESD探究) の両立を図る総合的な探究の時間の開発	ア 生徒主体の学習活動や校外の多彩な体験的プログラムを通して、「自らの人生を何に使うか」を考えていく使命を自覚し、それに基づいた進路の実現に向けて粘り強く行動することで、未来を切り拓く力を育む。 イ 教務部・進路指導部・SSH部が連携し、学校設定科目「ESD探究」、「理数DS」、「理数ゼミI」のカリキュラム開発を行う。			
				4 レジリエンスの育成、特に皆勤の奨励	ア 何事にも失敗を恐れず粘り強くチャレンジする心と失敗から学ぶ心を持ち、どのような困難にぶつかっても生きていくことができるレジリエンスを育成する。 イ 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」精神を滋養する中で、自己管理能力を高め、安易に欠席や遅刻をさせない。			
				5 学校行事、ホームルーム活動、部活動等の充実	ア 行事や部活動を通じて、生徒自ら主体的に活動すると共に、仲間とコミュニケーションを交わり、協働する力を醸成し、社会へ貢献できる人材の育成を目指す。 イ 部活動で培った力を学校行事や日々の生活で発揮させる。生徒会、各種委員会、部長会を有機的に連携させ、学校生活での様々な課題に責任を持って取り組ませることで、課題解決能力を育成する。			
				6 SSH、即興型ディベート、イマージョン教育の推進	ア SSHの活動を通し、Society5.0の到来に対し、批判的思考力と高度な課題解決能力を有し、解決に向けた実践力を発揮できる人材の育成を目指す。 イ 様々な教科・科目に関連させた即興型ディベート、英語イマージョン教育を展開する。			
				7 安全安心な学校環境の整備	ア 心身ともに健康な日常生活を送ることができる環境整備に取り組む。 イ 生涯にわたって、心身ともに健康な生活を送ることができるよう自己管理能力を高めるとともに、日々の清掃活動を通じて協働する力を養う。 ウ 命の大切さを理解し、他人に迷惑をかけない行動力を養う安全指導の徹底を図る。 エ 悩んでいる生徒への早期対応を図る。			
				8 エージェント (自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力) の育成の研究	ア 生徒の更なる「未来を切り拓く力」 (エージェント) の育成を目指して、教員個々のレベルアップを図るため、校内外における職員研修を充実させるとともに、その技術や情報を職員間で共有し、本校の諸課題解決のために職員の協働する力を高める。 イ 読書や表現活動を通して、情報活用能力・批判的思考力・表現発信力をもつ能動的に学ぶ生徒を育成する。			
				評価項目	具体的目標		具体的方策	
教育推進部門	教務	授業改革	授業改善と評価方法の研究	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教科指導の改善	A	A	オンライン授業の活用など、授業のスタイルを各先生が模索することができた。今後は状況に応じて様々なスタイルの授業を効果的に行っていきたい。教育課程の開発においては、各教科で十分な協議を重ねたうえで作成できている。出欠統計による新時制実施による検証については、今年度の状況下では実施が難しかった。	
		教育課程の開発	次期学習指導要領実施に向けた教育課程の開発	教育課程の開発 単元配列表の作成によるカリキュラムマネジメントの推進	A B			
		時制	新時制の施行の検証	出欠統計などによる効果の検証 学習時間調査を通じた生徒実態の把握	B B			
		図書・庶務	図書	読書の奨励と探究活動の促進による情報活用能力及び批判的思考力の育成 読書の時間と総合的な探究の時間や課題研究との連動	B B			A
庶務	円滑な庶務処理と文書記録、資料の整理、保管、効率的処理	年度初め、年度末における円滑な庶務処理の実施 「学校要覧」「城南誌」「入学の手引き」作成	A A					

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		
生徒育成部	生徒指導	基本的生活習慣の確立	5分前行動の精神を徹底し、余裕をもって入室させる	B	A	登校状況が思わしくなく、授業開始10分前になっても約3分の1の生徒が教室に入っていないのが現状である。時間にゆとりをもっていないことで、事故等の問題が生じることが十分に予想される。この点について改善できるよう、生徒の意識を向上させなければならない。また、登下校に関して地域からの苦情が絶えないことは、自転車通学者に対する啓発の効果的な方法を工夫したい。部活動に関しては各部活動で感染症対策を行いながらの活動となったが、次年度も継続して感染予防に努めなければならないと考える。学校行事では文化部発表会、体育大会を実施することができ、1年生から3年生までの縦のつながりや伝統の継承を体現することができた。内容については大幅な変更を余儀なくされたが、次年度も状況に応じた方法で実施したいと考える。		
			清掃活動等を通じて学習環境を整備と物を大切にする心の育成	A				
			校外で心のこもった大きな声で澁刺とした挨拶の励行	A				
		安全指導の徹底	他者の人格を尊重し、周りに配慮できる人間力の育成	A				
			公共の場で社会規範をふまえた行動をできる力の育成	B				
			さまざまな活動場面での安全点検の実施	A				
	生徒の主体的活動の支援	学校行事や部活動を通じて自己有用感と自己肯定感を育成する	A					
		生徒会・部長会・各委員会を有機的に連携させる	A					
		学年(横の糸)と学年を超えた(縦の糸)結束を強め「城南魂」伝統を継承する	A					
	端正教育の徹底	常に校訓をふまえた心構えができるようにする	A	A				
	支援の必要な生徒への指導体制づくり	小さな変化を逃さないようにし、面談等で信頼関係を構築する	A	A				
		正しいスマホ使用ができるように物事の判断する力を育成する	A					
相談ポストの有効活用		A						
保健管理	生徒の心身の健康維持	感染症に対する正しい理解と判断力、行動力を身につけさせる	A	A	コロナウイルス感染症への正しい理解と望ましい行動様式の指導を継続して行う。コロナ禍による心の問題や心身に不安を抱える生徒への早期対応に努める。保健室利用の生徒の情報の共有を図る。担任、学年、部活顧問、関係機関との連携を密にとり早期に充実した学校生活を送れるよう支援していく。整美委員会を中心に学校全体の美化意識の向上を図る。			
		保健だより等を活用し公衆衛生についての理解を深める	A					
		保健室利用生徒及び心理的に不安を抱える生徒の状況の把握と問題解決に向けての支援	A					
	美化意識の向上	学校全体での美化意識の向上を図る	A			A		
	委員会活動の活性化	委員会活動を全校生徒へ拡大する	ホームルームで積極的に呼びかけ、美化意識の啓発を図る			A		
高等学校保健会等の諸行事を中心に積極的な参加を促し、他校との交流・意識の向上を図り校内での活動を通じて還元させる			B	A				
特別支援教育の充実	特別支援教育の充実を図る	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の整備を行う	A	A				
企画推進部門	進路指導	新時制の施行と検証、学力の充実	新時制の施行に伴い、新たな進路指導展開のあり方を研究する	A		A	新時制の施行に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な活動が制限されたが、教員間のチームワークにより確実な指導を行うことができた。また、本年度から実施されている学校設定科目「ESD探究」についても、第1学年を中心に魅力的な取り組みを企画立案することができた。今後は、クラス朝礼時間の変更に伴う課外・第3学年特別時間割のあり方について、検証・改善する必要がある。	
			3年間を見越した教科的な進路指導計画の見直し	B				
		「ESD探究」の改善と推進	進路学習と課題研究の両立を図る学校設定科目「ESD探究」のカリキュラム開発	学校設定科目「ESD探究」のさらなる改善、企画立案				A
				「ドリカムプラン」「ESD課題研究」の実績をもとに、外の世界を知り体験するためのプログラムを開発する				A
		進路目標の明確化と粘り強い姿勢	高い志に基づく進路目標の実現に向けて妥協しない姿勢を有する生徒の育成	ゆるぎない第1志望の確立と、その実現に向けた粘り強い行動				B
				学校推薦型選抜入試・総合型選抜入試に向けた適切な指導	A			
	広報	積極的な広報活動	学校案内パンフレット及び学校紹介映像の改定、ホームページの閲覧機能の向上	A	A	コロナ禍により予定した中学生体験入学の通常実施は困難だったが、オンデマンド方式により受験生への情報発信を行うことができた。今後も機会確保のために邁進したい。		
			本校の特色を伝える出前授業の積極的実施、中学生体験入学の内容の充実	A				
		他分掌と連携した広報の充実	SSH、理数コース及び部活動に関する広報内容の充実	SSH部、理数コースと連携した理数コースに特化した広報内容の企画と実施				A
	SS	「理数DS」「理数ゼミ」の開発	学校設定科目「理数ゼミI」の内容の充実	A	A			大学連携で実施する学校設定科目や事業については、方法や日程を調整することで、実施可能な形態(オンライン等)で実施できた。本年度開設した学校設定科目の内容開発も定期的な状況把握の会議を行うことで円滑に推進できている。事業評価のためのアンケートもオンライン回答のプラットフォームの構築が進んだことで、早期の分析が可能になっている。外部からのアンケートや他校との連携企画等に活用していく等の工夫が考えられる。
			学校設定科目「理数DS」の内容の充実	A				
			教科担当者による理数会議の定期的な実施	A				
大学教員等の専門家による適切な指導助言の在り方の検討と連携機関との連絡調整			A					
「ESD探究」の開発		文理融合分野における課題研究の実施と教員の指導力向上	学校設定科目「ESD探究」の内容の充実	A				
			教科担当者によるデザイン会議の定期的な実施	A				
教員アンケートの開発	SSH事業の検証方法の開発と提言の開発	教員に対するSSHアンケートの実施と分析及びアンケート項目の検討	B	B				
研修	授業改善の一層の推進	本校の教育課題に即した職員研修の充実	本校の教育課題や各分掌のニーズに応える校内研修の企画・実施	A	A		職員研修については、各分掌からの要望を受け、オンライン学習支援や18歳成年についてなど、時宜にかなった内容となった。教科や学年単位でも、各教科で実施した研究授業や人権教育事前学習会等の研修機会を確保できるよう努めた。今後もより充実を図る。	
		職員間における情報や技術の共有	授業研究期間を中心とした研究授業・相互授業参観の充実	B				
		校外研修情報の積極的な提供	A					
	教育プログラムの充実	人権教育プログラムの充実	社会の変化に対応した人権教育プログラムの企画と職員研修の充実	A				
			主権者教育の推進	B				
教育実習の円滑な実施	共に学び合う期間としての教育実習期間の充実	A						

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
学部	第1学年	基本的生活習慣の確立	自己管理能力の育成	出席皆勤の奨励	B	A	<p>感染症対策のため、出席皆勤を奨励する機会を逸してしまい、この先の出席状況を懸念する。時制の変更により授業時間を確保することができ、授業進度は新学期開始の頃に心配したほどではなかったように思われる。部活動や学校行事を通して上級生の在り方を学ぶ機会が少なかったことが来年度の活動に影響しないように指導したい。本年度の新たな取り組みであるESD探究での企業訪問は大変有意義であった。学習の目的や社会の成り立ち、社会貢献の方法を目的の当たりにし、今後の学習意欲の向上や進路選択における視野の拡大につながるであろうと思われる。リフレクションシートを活用したい。</p>
			学習意欲の喚起と授業内容理解の促進	挨拶の励行と礼節を重んじる心の育成	A		
			安全指導の徹底	B			
			集団や社会に寄与する精神の育成	A			
	第2学年	授業の充実と学力の向上	学習意欲の喚起と授業内容理解の促進	新時制を効果的に生かした基礎・基本の定着	A	A	
				主体的な学びを育む授業の実施	A		
				学習と部活動・生徒会活動・学校行事の両立	A		
				進路意識の育成	主体的な進路目標の模索		
	第3学年	授業の充実と学力の向上	自己管理能力の育成	個人面談、三者面談を通して生徒が自らの進路を切り開こうとする姿勢を育成する	A	A	
				ESD探究と進路学習を両立させたドリカム教育の充実	A		
				出席奨励指導の徹底・挨拶の励行	B		
				規律ある集団活動・学習と部活動の両立・学校行事への積極的参加	A		
第1学年	自ら学ぶ意欲の育成	授業を中心とした主体的な学習習慣の確立	学習環境整備と清掃活動の徹底	A	A		
			基礎基本の定着・理解させる授業及び学びの質を向上させる授業の実践	A			
			問題作成の工夫や学習到達度による指導の充実	A			
			生徒が切磋琢磨できる環境作り	B			
第2学年	進路目標の明確化	高い志と進路実現に向けて主体的に粘り強く行動できる生徒の育成	第一志望にこだわる進路意識の喚起	A	A		
			進路学習や校外活動などを通して進路の視野を広める	B			
			個人面談等による生徒理解と適切な助言・上級生の進路情報の共有	A			
			学習と部活動・学校行事の両立	A			
第3学年	自己管理能力の向上	最高学年としての行動、自信と誇りの育成	主体的な学びを育む授業の実施	A	A		
			家庭学習の充実	A			
			部活動・学校行事等でのリーダーの育成	A			
			自ら考えさせる指導の徹底	B			
第1学年	進路指導の充実	強い意志と高い志を持った進路意識の育成	教師と生徒・保護者の信頼関係の構築	A	A		
			広い視野と高い志を持った進路希望の実現	A			
			学校推薦型選抜、総合型選抜入試受験者に対する組織的な指導	A			
			模擬試験等の有効活用	B			